

【様式1】 平成28年度「岐阜県ふるさと教育表彰」実践報告書

| | | | | | | |
|---|--|------|-----------|-------------------------|------|-----|
| 市町村名 | 可児市 | 学校名 | 可児市立東明小学校 | | | |
| 校長名 | 山口 彰 | 対象学年 | 全学年 | 人数 | 272人 | |
| 活動名 | 「美濃桃山陶の聖地」の学校 ふるさとへの誇りと愛着を育む | | 時間数 | 低：10 中：70時間 高学年：70時間 | 継続年数 | 22年 |
| 題材 | ① 自然環境（山野・河川・動物・植物・その他） [、] ② 歴史（出来事・史跡・先人・その他） [荒川豊蔵 豊蔵資料館 可児郷土館] ③ 文化（芸能・芸術・民話・風習・その他） [志野焼き&茶の湯（全学年）] ④ 地場産業（農業・水産業・伝統工芸・その他） [米作、豆、さつまいも作り、陶芸] ⑤ 絆を深め、よりよいふるさとをつくる活動 [お茶会、陶芸展、感謝の会、福寿苑訪問] ⑥ その他（国際交流、郵便局 JA、福祉施設等） [フレンベール小 花や車椅子や花瓶贈呈、出張作品展] | | | | | |
| 複数年継続するための工夫改善 | ○年間指導計画を毎年見直し、指導の方向性を共通理解した上で教育課程に位置付け実践する。 *ふるさとに学び、ふるさとへの誇りと愛着を育む双方向のふるさと教育を目指している。 （受け身的なふるさと教育から、地域に発信・貢献する能動的なふるさと教育の具現を目指す） ○ふるさと教育主任（正副）を位置付け、地域人材や関連施設等との円滑な連携を図っている。 | | | | | |
| <p>1 ねらい: 校区の特徴である陶芸と茶の湯体験を軸に、地域に暮らす様々な人々との関わりの中で、ふるさとの歴史・伝統文化等を学びながら、生まれ育ったふるさとへの誇りと愛着を育む。</p> <p>2 ふるさとから学校へ発信 ～ ふるさとの歴史・伝統文化の素晴らしさを学ぶ ～ 全学年の教育課程に計画的、意図的に陶芸と茶の湯に関わる体験学習を位置付け、地域の陶芸家や茶道家、ボランティアの指導の下、小学校6年間を通じた地域ぐるみのふるさと教育を展開している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・陶芸では1年生が抹茶茶碗の絵付け「マイ茶碗作り」、2年生が手捻りの「皿作り」、3年生が野焼きの「シーサー作り」、4年生が志野焼きの「器作り」、5年生が2色粘土の「皿作り」、6年生が「花瓶作り」と発達段階に応じた題材と手法で取り組む。また3年生は茶の湯、4年生は志野焼きの歴史や文化等について「美濃桃山陶の聖地」の地の利を活かした総合学習で学びを深める。 ・茶の湯では全校が1年生時の「マイ茶碗」でお茶会を開催し、お手前の作法から「お茶の心（他者尊重）」を学ぶ。低学年は高学年から、中・高学年は互いにお茶を点て合う等、交流を深める。 ・更に興味関心をもつ児童は「陶芸クラブ」や「お茶クラブ」に所属して夢中になって学んでいる。 <p>3 学校からふるさとへ発信 ～ ふるさと(家庭や地域社会)へ笑顔と感謝の心を贈る ～</p> <ul style="list-style-type: none"> ・秋に全校児童や教職員による恒例「東明小陶芸展」を開催しているが、今年は保護者作品も展示した地域ぐるみの作品展が実現した。また6年生は地元郵便局等5か所に手作りの「幸福の花瓶」を、福祉委員会は公民館にみんなで育てたプランターの花を、そして市にアルミ缶回収の収益で購入した車椅子を贈った。更に地元の伝統文化を周知する為に公民館で「出張！子供陶芸展」を開催して地域から好評を得た。年末に6年生は高齢者施設を慰問し歌や踊りで心温まる交流会も開催した。 ・3日間に渡る本校自慢の「全校茶会」では、お世話になった方々を招いて一服のお茶に感謝の心を込めてもてなした。また学校支援隊(70名)を招いた「感謝の会」は、5年生が総合学習で収穫した餅米を使って、親子一緒に焼き上げた五平餅を感謝の心と共に贈り、大きな感動を全員で共有した。 ・今回保護者の希望で初めて「親子七夕茶会」「卒業親子茶会」が開催された。また地元公民館祭でお茶クラブの児童が「茶席スタッフ」を務め、地域の一員としての活躍ぶりが大いに賞賛された。更に豪州フレンベール小学校来校時、東明小自慢のお茶でもてなしたり、手作りの「友情の花瓶」を贈ったりしたことは、児童にふるさとの伝統文化の価値に改めて気付かせ、誇りと愛着を一層確かにした。 | | | | | | |

4 ふるさと教育による児童の変容と学校経営 ～ 全国学力・学習状況調査（質問紙）より ～

「地域の行事に参加」が 66,7%（国 39,1% 県 57,4%）、「地域でボランティア活動への参加」も 64,4%（国 36,2% 県 53,7%）は特筆する。児童にとって地域は魅力溢れる活動の場であり、同時に自らの社会性（思いやりや規範意識等）を磨く場ともなっている。長年に渡る本校のふるさと教育は、穏やかで落ち着きある学校風土を醸成し不登校ゼロ、いじめ問題激減、地域との協調性等の源ともなっている。本校の実践は、大人自身の伝統文化への興味や関心も高め、家庭や地域で陶芸やお茶をわが子と一緒に体験し絆を深めようとする動きが見られ出した。ふるさとの伝統文化の素晴らしさが、児童の学びの笑顔に乗って学校から家庭・地域へと発信され始めた。即ち、東明小学校の目指す「双方向のふるさと教育」が、着実に実を結び、児童に誇りと愛着が育まれつつある手応えを感じる。